実りの秋

前川　良太

10 月 5 日、無事全員出席で 4，5 歳の運動会を終えることができました。始まる前、私は待機している子どもたちに声をかけていました。するとぞう組のまりかちゃんが「ドキドキするわ～。」と少し青ざめたような表情で話していました。「なににドキドキしてるんや？」と聞いてみると「こんなにいっぱい見に来るとは思ってなかった。」と説明してくれました。そんなまりかちゃんに「でも見てみ、知らん人ばっかりじゃないやろ？ほとんどみんな知ってるやん。」そう声をかけると、「あ、ホンマやなぁ。いけるわ～。」そう言って開会宣言に飛び出していきました。その後の彼女の堂々としたこと。もちろんほかの子たちだってそうです。きりん組の子たちは本当にいつも通りのびのび楽しんでいたし、ぞう組の子たちは仲間を意識したり、それぞれのゴールに向かって一生懸命向かっていく姿に、たくさん感動させられました。つばさの運動会は日常の延長線上にある運動会です。まりかちゃんにとっても、たくさんの観客たちは私の普段を知っている人たちだと気づいたからこそ、普段通り生き生きと飛び出していったのです。そしてそんな観客の目は、子どもたちの出来栄えを見定める目ではなく、純粋に子ども自身が願うゴールに向かう姿をただただ応援する目だからこそ、安心して自分らしくその日を楽しめるのです。

ちなみに少し反響もあったので、アトムっ子の我が子のアトムフェス（運動会）ですが、無謀に思えた竹馬もコツコツ練習をして乗れるようになりました。畳登り（畳の壁を駆け上ります。高さや角度は子どもが自分で決めます）は泣きの 1 回で少し下げて登りました。「すごかったなぁ。」とほめたのですが「もっと真剣にやればよかったわ。ほんなら下げなくても登れたのに。」と満足していない様子でした。親子そっくりですね(笑)そして、次の日。自宅でのんびりしていると息子が「ところでさ、アトムフェスの本番っていつなん？」と言い出したのです。妻と思わずずっこけました。どんなつもりでやってたのか…。だけどそんな彼の言葉が答えだなとも思いました。いつも本番で、いつも練習。失敗してもやり直せるし、自分がどうありたいかは自分で決める。そんなアトムやつばさの保育そのものが運動会で大事にしていることです。

10 月 27 日、つばさ村も大盛況で幕を閉じました。およそ 300 名を超える親子の参加でした。当日の盛況ぶりももちろんうれしいですが、何よりやってよかったなと思ったことが、保護者やＯＢ、地域の人と一緒に対話をしながら準備をし、当日を迎えられたことです。今回の行事に関わってくれたのは【職員有志の会ＷＥ　ＷＩＳＨ】【カンガルーの会】【ゴリラの会】【(家庭育児をしている）フリースペースひだまり】【つばさが丘西自治会有志】【民生委員】【地域福祉委員】【つばさっ子ＯＢ・ＯＧ】とこれだけのたくさんの人と一緒に協力して取り組みました。地域の子どもたち住民たちへの文化発信や居場所づくり。そしてこの園の「街づくりの拠点」としての大事な役割にまた一歩みんなの力で踏み出せたことが何よりうれしいことでした。

当日いろんなところでお手伝いをしてくれた中学 3 年生の子どもたちは、まさに思春期真っ盛りの子どもたちです。「親には愛想ないのになんでつばさには行きたがるんや」と笑いながら話すお母さんもいました。どうしてなんでしょうね。きっと突っ張っていいカッコしたって、もっとぐちゃぐちゃな時期をともに生活し合った仲間や場所だからこそ、飾らずに自分らしくいられるのでしょうね。運動会を終えたばかりの子どもたちの将来もまた、いつかこんな風になるんだなと感慨深くまた一段と大きくなった子どもたちの背中を、焼き鳥の煙越しに見つめていました。